

RE:DISCOVER KAMIMICHI

2023
SPRING

VOL.
3

新たな視点で楽しむ富山県上市町

再発見。あなたの知らない上市町。



TAKE
FREE

羽岳のふもとのまち
上市町

(RE)DISCOVER KAMIMICHI

VOL.3 新たな視点で楽しむ富山県上市町

REPORT
1

探検家・高橋大輔氏が語る“心の故郷”上市町 1

地域の人々が守り続けてきた、変わらない風景。

REPORT
2

「釀泉寺円筒分水槽」 3

県内最大クラスの大きさを誇る、上市初の文化財登録物件。

FOCUS

大王杉の森ミニシンポジウム 5

「屋久杉の眼から見る立山杉の王国」講演レポート

REPORT
3

スウェーデン発祥のスポーツ「クップ」が上市町にやってきた! 7

老若男女が楽しめる、エコスポーツの魅力。

上市町に住んでいる人にも、町外・県外の人にも、
もっと上市を知つてほしい。そんな冊子です。

日本の大切なものが守られている
ある意味、聖地のような場所。

探検家・高橋大輔氏が語る “心の故郷”上市町



「きっと何十年経っても上市町にはこの風景が残っているんだろうな」



何度も通う中で感じた
住民たちの地元愛。

上市町へ何度も通う中で、皆さんの地元愛のようなものを強く感じられました。「地域のことをもっと知りたい」という気持ちが集まっているので、きっと何十年経っても上市

いう上市があるのか、こういふ上市の見方があるのか、と思わせられました。その積み重ねが次の気づき、これからヒントにもなっています。地域の人との出会いが、私を前に進ませてくれているんです。



高橋 大輔

1966年秋田市生まれ。探検家・作家。明治大学在学中から世界六大陸を放浪。「物語を旅する」をテーマに世界各地の神話や伝説を検証し、文献と現場への旅を重ねている。2005年ナショナル・ジオグラフィック・ソサエティから支援を受けたロビンソン・クルーソー島国際探検隊でエクスペディション・リーダー(探検隊長)を務める。著書に「ロビンソン・クルーソー漂流記」の実在モデルの足跡を追った『ロビンソン・クルーソーを探して』(新潮文庫)、浦島太郎の亀の正体や龍宮の在りか、玉手箱の真実などを追跡した『浦島太郎はどこへ行ったのか』(新潮社)等がある。



北アルプス文化センターで開催された講演会には多くの人が集まりました。



ツアーのロケハンには、フランスのアウトドアメーカー・ミレーの取材班が同行。

町にはこの風景が残っているんだろうな。私が初めて訪れた日からこの6年で、変わることは変わっていきますよね。もちろん人が行かないような場所に行くので探検は日常的ではないのですが、私は疑問に思ったことを現場に行って調べる。それが例え近所の路地裏であっても、疑問に思うことの答えを探す。そのような行動をする欧米の探検家たちに憧れを持っています。

探検には必ず、探しものと乗り越えなければならない壁があります。歴史を調べ、壁を乗り越え、乗り越えた先に何かをキャッチできる。探検の究極の目的は発見であり、知りたいものを探すこと。でも私自身、一番アドレナリンが出るのは、プロセス

であります。壁に当たると「ここに行くといい」と教えていただき、また「こういうものがあつたらいいな」と想像したことを、地元の人の話を頼りに手繕り寄せていく。つながつて行く先に、発見はあります。人が違えば背景も違い、思いも違うということ。上市でいろいろな人と出会うことで、こう

を楽しむことなんです。答え探しを出し出した瞬間、次の疑問が提示され、そこからまた新しい探究が始まる。自分が好きなテーマであれば、エンダレスに探検は続していくんです。

地域の人々に導かれ答え探しの探検は進む。

物

「語を旅する」をテーマに、世界各地に伝わる神話や伝説などを紐解き、探検を続けた高橋大輔さん。著書である「剣岳線の記 平安時代の初登頂ミステリーに挑む」では何度も上市を訪れ、剣岳や大岩山日石寺、黒川遺跡群などをめぐらながら執筆を行なってきました。

2022年9月、「上市黒川遺跡群から探る古道ミステリー」と題した講演会＆ツアード來町した高橋さんに、探検家の視点で見る上市町について話をうかがいました。

「剣岳線の記 平安時代の初登頂ミステリーに挑む」では何度も上市を訪れ、剣岳や大岩山日石寺、黒川遺跡群などをめぐらながら執筆を行なってきました。

2022年9月、「上市黒川遺跡群から探る古道ミステリー」と題した講演会＆ツアード來町した高橋さんに、探検家の視点で見る上市町について話をうかがいました。

「剣岳線の

県内最大クラスの大きさを誇る
上市初の文化財登録物件「釀泉寺円筒分水槽」



釀泉寺円筒分水槽

共通幹線水路、水路トンネル、円筒分水、右岸・左岸幹線水路という4つの構造から成り立ち、右岸と左岸それぞれの幹線水路へ水が分配する仕組みです。右岸と左岸の分水比は右岸0.49左岸0.51。分水された右岸幹線水路、上市川河床下を逆サイフォンで横断し、水路へと接続しているのが特徴です。

8年という年月をかけ農業用の水利用施設として建設され、以降安川沿岸域の水害、夏期の深刻な水不足によって起こった争いがきっかけでした。昭和26年に、民主的な分水のための組合が組織化。

幹線水路を通って流れ込む水勢、分水槽から湧き上がる水勢、そしてほぼ2等分されていく水勢と、迫力ある水の流れはとても美しく、見る者を魅了します。令和4年には国の有形文化財にも登録され、上市町では初となる文化財登録物件となりました。とやまの名水にも選定される分水槽は、先人たちの技術と水に対する祈りが結集した上市町の遺産ともいえるでしょう。

「釀泉寺円筒分水槽」のなりたちは、早乙女岳に源を発する上市川沿岸域の水害、夏期の深刻な水不足によって起こった争いがきっかけでした。昭和26年に、民主的な分水のための組合が組織化。



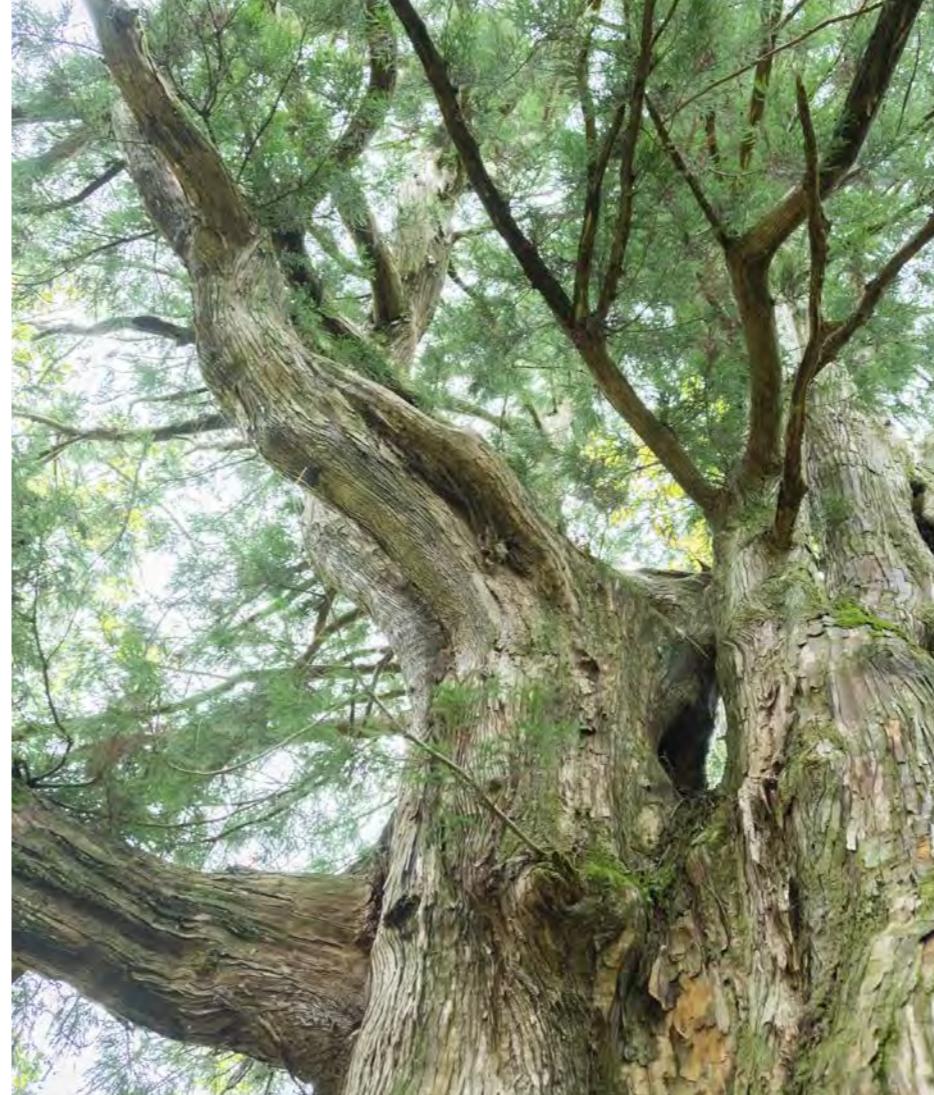
※参考資料：上市川沿岸土地改良区／上市町教育委員会
※令和4年2月17日付け文部科学省告示第15号により、正式に国登録有形文化財となりました。
※平成17年度「とやまの名水」選定※平成21年度「とやま文化財百選」とやまの近代歴史遺産「選定登録番号：第16-0161号、
※令和4年度うるおい環境とやま賞
・名称：釀泉寺円筒分水槽（しゃくせんじえんとうぶんすいそう）
・員数：1基
・所在の場所：富山県中新川郡上市町釀泉寺字向川原50・53
・構造、形式及び大きさ：鉄筋コンクリート造、面積202m²
・所有者：上市川沿岸土地改良区
・建設年代：昭和29年

農業用水などを一定の割合で分配する「円筒分水」をご存知ですか？ここ近年では美しい景観スポットとしても人気があり、全国的にも大変ファンが多いことでも知られています。

円筒分水槽は、サイフォンの原理（高い位置にある出発点と低い位置にある目的地を管で繋ぎ、途中出発地点より高い地点を通り等に水を流し出す仕組み）を持つ利水施設のこと。現在富山県には5基の円筒分水槽が稼働しており、中でも上市町のものは、県内最大クラスの大きさを誇る直径9.3mの同心溢流（いづりゅう）円筒型槽となります。

大王杉の森ミニシンポジウム 「屋久杉の眼から見る立山杉の王国」講演レポート

剣岳の麓・馬場島の奥地に佇む立山杉の大樹。その幹回りは10mを超え、「剣の大王杉」と称されています。大王の名に恥じぬ威厳を放つ大樹の周辺には、何本もの巨大杉が立ち並び「大王杉の森」を形成。その森の価値を学び、守り、伝えるべく、さまざまな分野の専門家による視点を踏まえながら、保全も含めた持続的な活用を考えるミニシンポジウムが開催されました。



剣岳は天然林の王国。
その重要性や面白さを
知ってもらいたい。

上市町文化研修センターを会場に
開催した「大王杉の森ミニシンポジ
ウム」には約50名が参加。第1部は
一般社団法人屋久島アカデミーの
代表理事を務める小原比呂志氏に
よる特別講演「屋久杉の眼から見る
立山杉の王国」が行われました。そ
の講演の中で小原氏は屋久杉と立
山杉について、「立山杉の形はとても
複雑。それが雪のある日本海側で
育つ杉の特徴であり、構造は屋久杉
と似ている」と言及。また歴史的背
景や水、地質といった生育環境を比
べた話題では、観光資源としての可
能性にも触れました。「剣岳は天然
林の王国。大王杉は本当に貴重な存
在であり、その重要性や面白さを
もっとたくさんの人たちに知つても
ういたい」と話し、参加者達からは
大きな拍手が湧き起きました。



特別講演講師・パネリスト 小原 比呂志氏
一般社団法人屋久島アカデミー 代表理事

北海道十勝生まれ。鹿児島大学水産学部卒業。在学中から屋久島の渓谷や森林を幅広く探し、1989年屋久島ガイド協会を創立。1993年には屋久島野外活動総合センター(YNAC)創立。国内で最も初期からエコツーリズムに取り組み、エコツアーガイドとしてさまざまなフィールドの持続可能な開発を行ってきた。2022年 YNACを辞し一般社団法人屋久島アカデミーを創立。『屋久島大学』プロジェクトを推進し、オンラインを活用して屋久島ガイドの養成や国内外の関係人口の増強に取り組む。

パネリスト 中森 健太氏
環境省立山管理官事務所 国立公園管理官(自然保護官)
令和3年度環境省入省。釧路自然環境事務所勤務を経て、
令和4年4月より環境省立山管理官事務所着任。

パネリスト 水野 恭一氏
株式会社風の旅行社 風カルチャークラブ企画開発室室長
1991年「株式会社風の旅行社創業。現地とのつながりを大切にし、現地との協同で造られた旅が人気。ネバールをはじめ、チベット、ブータン、モンゴル、モロッコ、南米など、現地の歴史、文化、習慣、生活を尊重し、観るだけではなく現地の人々の暮らしに触れ交流ができる旅づくりを目指す。2001年、生涯学習の有隣堂カルチャークラブを風カルチャークラブというブランドとして引き継ぎ、テーマ型の講座、国内旅行、海外旅行を企画し販売。上市町観光協会とは、2014年の現地視察以来、協働関係にあり、上市町の資源を活かしたさまざまなプログラムを造成販売している。



第2部は公益財団法人日本交通公社の常務理事・観光地域研究部長の寺崎竜雄氏をファシリテーターに迎え、環境省/立山管理官事務所/国立公園管理官の中森健太氏、風の旅行社/風カルチャークラブ企画開発室室長の水野恭一氏、そして小原比呂志氏の3名のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。立山杉の価値と観光資源としての活用法について考える。

中森氏「樹齢1000年ほどの杉はたくさんある。しかし1時間ほど歩くだけで、屋久島レベルの杉を見られることはすごいこと。高い基準でその価値を守らなければいけない。公園制度の中で、対応策を慎重に考えなければいけない」

小原氏「森を形づくる杉の成り立ちを科学的に調べるなど、さまざまことを地域として明らかにし、分かることが大事」

水野氏「巨木をテーマにしたツアーはよく組んでおり、巨木を見る感動を伝えている。とても喜ばれる企画で、商品価値は抜群にある」

中森氏「文化財保護法などで森を守るほど利用促進はしづらくなる。利用と保護のバランスが必要。資源を生かすか守るかは、上市町の人の意思にある。その問題をまず町民で話す場を設けることが大事」

小原氏「他の地域を参考に、利用人数データなど数字を踏まえながら見極めていくことが重要。権限と責任を考えることで、深い理解と動きに変わっていく。皆さんで学び、考える工夫をはじめに考えることが必要」

中森氏「観光ツアーリーダーとして成り立つか、という問いに今は難しいと見える。自然保護を要する場所に人間が入るのは生態系を崩す可能性がある。ルールを自治体から提案し、地元ガイドを付けながら少人数で行うことで商品化ができるかもしれない」

中森氏「文化財保護法などで森を守るほど利用促進はしづらくなる。利用と保護のバランスが必要。資源を生かすか守るかは、上市町の人の意思にある。その問題をまず町民で話す場を設けることが大事」

小原氏「他の地域を参考に、利用

小原氏「森を形づくる杉の成り立ちを科学的に調べるなど、さまざまことを地域として明らかにし、分かることが大事」

水野氏「巨木をテーマにしたツアーはよく組んでおり、巨木を見る感動を伝えている。とても喜ばれる企画で、商品価値は抜群にある」

中森氏「文化財保護法などで森を守るほど利用促進はしづらくなる。利用と保護のバランスが必要。資源を生かすか守るかは、上市町の人の意思にある。その問題をまず町民で話す場を設けることが大事」

小原氏「他の地域を参考に、利用

小原氏「森を形づくる杉の成り立ちを科学的に調べるなど、さまざまことを地域として明らかにし、分かることが大事」

水野

スウェーデン発祥のスポーツ 「カップ」が上市町にやつてきた！

スウェーデンに縁がある富士化學工業と共に上市町觀光協會ではこれまで2回にわたり「北歐文化をやわらか楽しむ」イベント「やわらかキャンプ」を開催してきました。スウェーデンに関連工場を持つ同社の私設美術館である「西田美術館」を会場に、北欧にまつわるさまざまな企画が用意され、町内外から来た多くの人が異文化を堪能しました。

生まれた薪遊び「カップ」

イベントの中でも特に人気を集めていたのが「カップ」の体験会です。「カップ」とは薪（まき・たきぎ）を意味するスウェーデン生まれのスポーツでゴットランド島が発祥の地といわれています。どの家の軒下にも薪のあった時代に薪を用いた遊びとして生まれたのが発端だそう。

ゴッドランドはかつてバイキングの活動拠点でもあったことから、「バイキング文化から生まれたスポーツ」という認識が広く浸透しているようですが、「そのような勇猛な祖先に想いを馳せた島民たちが自らのアイデントティを確認する役割をこの競技に託した」というのが由来の正しい捉え方なのかもしれません。



一般社団法人日本カップ協会では公認普及指導員制度を制定し、講習会の主催や他団体の講習会への指導者派遣を実施。普及指導員資格は1日の講習会で取得でき、上市町でも2022年9月に講習会が開かれ、数名の普及指導員が生まれました。その普及指導員達により2023年度から「とやまカップ

」が発足。今後は普及指導員の講習会などを積極的に行っていく予定とのこと。「カップ」を通して、町や人が交流するきっかけとなるような大会やイベント開催にも期待が持られます。

上市町より広がる、カップの輪！
カップに興味を持たれた方は下記までご連絡ください！

とやまカップクラブ
☎ 076-472-1515(上市町觀光協會)
✉ kubb.toyama@gmail.com

富山県中新川郡上市町若杉3番地3(上市町觀光協會内)

音や戦略、技術の研鑽と楽しみ方もさまざま

「カップ」のルールはいたつてシンプル。コートで2チームが向かい合い、先行・後攻を決めて行います。両チーム、各5個のカップ（角材）と王冠型のキング（大木片）1個を陣地内に立て、相手コートの的である（丸棒）を下手投げして倒していく。最後にキングを倒します。下手投げでしか投げられない

ルールなので、体の大きさや体力差はほとんど関係なく、子供から大人まで、誰もがどこでも気軽に楽しめるエコなスポーツ「カップ」。カストピンナがカップを倒した際に発する爽快な木の音や、チームで戦略を考えながら進められるゲーム展開、的確に当てる技術の研鑽など、人によって楽しみ方もさまざまなるところが魅力といえるでしょう。

将来的には町全体が盛り上がるスポーツに日本で初めて「カップ」が紹介されたのは2005年。1995年にスウェーデンのゴッドランド島で初の世界大会が行われてから10年後のことでした。現在日本での競技人口は約1万人といわれ、さらにファンや競技人口を増やすべく各地域のレクリエーション協会などと共同で普及体験会を実施するなど、本格的な普及活動が行われています。

上市町といえど「カップ」、と呼ばれる日もそう遠くはないそうですね。みなも機会があればぜひ挑戦してみてください！



取材を通して（ライター後記）

「新たな視点で楽しむ上市町」というテーマでお届けした3号目では、上市町に「昔から変わらずあるもの」と「根付くもの」そして「新しい風を吹き込むもの」に焦点を当て取材を進めてきました。驚きと発見の多い町であることは過去2年の取材を通して分かっていたつもりでいましたが、今回は町の持つポテンシャルの高さを感じずにはいられない、想像を遥かに超える面白さが目白押しだったことをここでお伝えしておきたいと思います。

これまで何気なく見てきたものを”もっと知る”ことで、こんなにも町の見方を変えられるなんて本当に不思議なこと。これからも上市町の可能性をもっと見つけてみたいですね。

きっと、あなたも。

RE:DISCOVER
{ KAMIICHI }



KAMIICHI
TOYAMA, JAPAN

発行：上市町観光協会

TEL/076-472-1515 WEB/kami1tabi.net

取材・文/居場 梓 撮影/利波由紀子 デザイン/GATHER AROUND